

気分はビーチリゾート

マリンスポーツを楽しむ場所といえば、海辺のリゾート地のイメージがある。しかし大阪の中心部・梅田から遠くない場所に、高層ビル群をバックに初心者でもウインドサーフィンが楽しめるスポットがある。



大阪の中心部・梅田の高層ビル群を背景に、淀川でウインドサーフィンを楽しむ北本恵一さん。2014年12月、大阪市

淀川でウインドサーフィン



2014年12月上旬、気温が10度を下回り、冷たい強風が吹きつける中、淀川の伝法大橋付近にいくつもの帆が揚がり、愛好家らがウインドサーフィンを楽しんでいた。そのうちの一人、淀川から遠い都心の河川でも楽しめる。自ら淀川で練習し、講習会も開く北本恵一さんは「風が吹き、川幅が広いのでウインドサーフィンに適している」と説明する。

過去25年間で約3000人以上が、北本さんの講習を受けてウインドサーフィンを始めた。最近では中高年の受講者が主流で、若い頃に挑戦したかったけれど勇気がなかったという人が多い。これまでの最年長者は65歳という。艇庫を兼ねた店には、

多くの常連客が訪れる。大阪市立万国センター職員でオランダ人のコリン・ファンワローイさん(43)は来日した11年の夏、自転車です川を通った際、偶然ウインドサーフィンの光景を見て、北本さんの講習を受けた。「風を切って水面を進むのが本当に気持ちいい」と滑らかな日本語で話す。

淀川という水質汚染のイメージがあるかもしれない。しかし国土交通省淀川河川事務所の統計によると、伝法大橋付近では、数値が大きいほど水が汚れていることを示す生物化学的酸素要求量(BOD)が80年代半ば

と比べ約6分の1となったと改善されたという。北本さんは「初心者が始めるには温暖な5月から10月の間がお勧め。今年こそサーフデビューしてみよう」と話している。

筋弛緩剤誤投与 60代男性が死亡

薬取り違え

大阪府立急性期・総合医療センター(大阪市)は12月31日、抗がん剤治療を受けていた60代の男性に、抗菌薬と間違え、容器が似ている筋弛緩剤を29日に投与したと発表した。男性は約2時間後に死亡した。

同センターによる薬剤と、主治医は抗菌薬「マキシピム」の点滴を指示したが、薬局が誤って筋弛緩剤「マスキユレート」を病棟に送っていた。医師の指示書や薬局の処方箋を確認した病棟の女性看護師2人も、間違いを発見できなかった。

容器の形状が似ているため、正しいと見えた。府警によると、カメラで盗撮したとして、府迷惑防止条例違反の疑いで、交通指導課の巡査部長八木伸浩(44)＝兵庫県川西市大和西1＝を現行犯逮捕した。

府警によると、カメラにはこの日撮影されたと思われる別の女性の下着が写った動画も数本記録されていた。八木容疑者は容疑を認め「数日前にも同じ書店で盗撮した」と供述している。

集合住宅火災で 住民の男性死亡

岸和田、2人軽症

1日午前8時10分ごろ、大阪府岸和田市南上町1にある集合住宅から火が出ていると11時55分ごろ、大阪市

速捕容疑は31日午前11時55分ごろ、大阪市